

## 文化審が5基で名称変更答申

# 前 橋 国史跡「総社古墳群」に

国の文化審議会（佐藤信会長）は20日、前橋市総社地域に広がる古墳群のうち、すでに国史跡に指定済

みの3基に新たに2基を加

え、5基合わせて「総社古墳群」と名称変更するよう盛山正仁文部科学相に答申した。古墳群全体の歴史的価値が初めて正式に評価された形で、市は今後保護や情報発信を強化する。

答申によると、すでに国

史跡に指定されている三子山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳を統合。遠見山古墳、愛宕山古墳を追加指定し、5基合わせて総社古墳群と

する。

5世紀後半から7世紀後半にかけて築かれた東日本有数の古墳群で、当時の古墳の形や埋葬方法の変遷、ヤマト王権との深い関連がうかがえるのが特徴。近くに上野国分寺跡、山王廃寺跡などの重要史跡もある。

市は2017年度から古墳群の全体的な価値などを調査してきた。答申を受け、山本龍市長は「市の成り立ちや発展を知る上で必

要不可欠な史跡。価値を損なうことなく、未来へと継承していきたい」とのコメントを発表した。市教委文化財保護課は「多くの人に足を運んでもらい、各古墳を築いた豪族の力の大きさや当時の地域発展の歴史を体感してほしい」とした。

審議会はこれ他、国史跡の上野国佐位郡正倉跡（伊勢崎市上植木本町）について、未指定だった約340平方メートルを追加指定するよう答申した。正倉が立ち並んでいた区画で、指定後の広さは計約9万1400平方メートルとなる。

いずれも近く官報に告示される見通し。統合に伴い